

3. 肉用牛経営における後継者支援対策

玖珠家畜保健衛生所

○平川素子 里秀樹

【はじめに】

管内の肉用牛飼養農家戸数は384戸。繁殖雌牛20頭以上飼養農家のうち40歳未満の後継者がいる農家は19戸。そのうち、当家保は14戸について毎月定期的に衛生検査及び繁殖検診を目的に巡回指導を行っている。なかでも、後継者が就農時に規模拡大した1戸について生産性向上を目的とした技術支援に重点的に取り組んできたので報告する。

【農家概要】

後継者（現在33歳）就農以前は繁殖雌牛30頭の農家であったが、後継者就農を契機として平成23年6月に廃業する農場から依頼されて繁殖雌牛50頭を購入するとともに農場施設も借り受け全面移転した。肉用牛飼養経験に乏しい後継者は、一気に増頭した影響もあり飼養衛生管理の悪化が認められたため平成24年8月から重点指導を開始。

【取組内容】

①繁殖雌牛の繁殖台帳を家保が作成し、農家と家保で共有して管理。購入した繁殖雌牛群は栄養状態が悪く高齢や長期不受胎牛も多かったため、牛群の再構築に取組。繁殖検診結果は獣医師に連絡し迅速な繁殖障害対策を実施し繁殖成績向上に取組。

②子牛の育成については移転当初から早期離乳方式に取り組んでいたが、下痢等で発育不良に陥る子牛が多かったことから病性鑑定を実施した結果、コクシジウムの駆虫プログラムや生菌剤の投与を実施。また、簡易カーフハッチや子牛用ベットの利用を推進。

③早期離乳方式を実施している優良農家の視察を行い日常の飼養衛生管理を修得させるとともに、必要最低限の経営経費の支出等については父親との協議を実施。

【結果】

①移転当初は繁殖雌牛85頭であったが、平成26年9月現在繁殖雌牛61頭、育成牛7頭、計68頭の牛群に整備。繁殖雌牛の平均分娩間隔は390日前後を維持。

②子牛の育成成績を玖珠子牛市場平均値で評価すると、DGは平成24年の去勢▲0.09kg、雌▲0.08kgであったが、平成26年（～9月）で去勢▲0.01kg、雌▲0.08kg。同様に価格は去勢▲21千円、雌▲27千円から去勢▲3千円、雌▲23千円と徐々に改善している。

子牛の個体管理の徹底と、簡易カーフハッチや子牛用ベットの利用効果は大きく、子牛の下痢症の罹患率は平成25年度33.7%から平成26年度（～9月）17.3%に改善。

③優良農家の視察により飼養管理の改善及び工夫に意識が高揚。父親から必要経費が確保され、特に子牛飼養環境は清潔な環境下での飼育ができています。

【まとめ】

飼養規模や資金面等で後継者のおかれた立場は様々であるが、熱意のある後継者を育て支援することも必要である。また一方で、現在の飼養規模に満足している後継者もいるが個人経営から企業の経営を目指す取り組みにも挑戦していかないと、高齢化による肉用牛飼養頭数の減少に歯止めがかからないのではないかと考える。